

# 令和4年度 学校関係者評価書

学校法人青い鳥学園 佐藤幼稚園 園長 山本 勘太  
 佐藤幼稚園学校関係者評価委員会委員長 菊池 一未  
 (学校関係者評価委員 7名)

## 1. 本年度の重点目標

- イ. 保護者教育及び親子ふれあいを深めるための事業の充実
- ロ. 心豊かに育む絵本の読み聞かせ、ごっこ遊び、リトミックの充実
- ハ. 在園児及び未就園児親子への子育て支援の充実

## 2. 自己評価結果に対する学校関係者評価

\* A (十分に成果があった)、B (成果があった)、C (少しの成果があった)、D (成果がなかった) (教職員 8名)

評価対象	評価項目	具体的取組	自己評価				園としての改善策	学校評価				学校関係者評価委員の意見
			A	B	C	D		A	B	C	D	
A. 本年度の重点目標・活動	1.保護者教育及び親子ふれあいを深めるための事業の充実	1.年少児は秋に親子遠足を実施。年中児・年長児は秋に親子レクリエーション、年長児は父親との親子レクリエーションも実施。その他、全学年、保護者参加型運動会を実施。又、当園の野外施設で、在卒園児親子を対象としたミニイベントを実施したり、野外施設開放デーを実施した。それに加えて、年長児は、3学期に親子もちつき大会を実施した	0	8	0	0	1.今年度もコロナ禍であり、昨年度に引き続き、難しいスタートとなったが、2年間の経験を活かし、実施方法や内容を検討し、親子でレクリエーション、及び親子遠足を楽しんで頂けるよう考え、実施できた。例年同様、園児や保護者の方には楽しんで頂けたのではないかと思います。次年度以降もこの3年間の経験を活かし、実施方法や内容を精査しながら、親子で楽しんで頂ける活動を少しでも多く取り入れていきたいと思う 年長児のお父さんと遊ぶ方も施設の利用等において、色々と制約がある中での実施となったが、お父さんならではの活動を取り入れながら、父子で楽しんでもらえるよう工夫し、実施することができたのではないかと思います 2.絵本の読み聞かせは、当園が大切にしていることの1つであり、例年通り、お帰りの時間等に子ども達がゆったりとした時間を過ごせるよう行った。又、例年通り、各学年、ごっこ遊びやリトミックに力を入れて、創意工夫して実践してきた成果を実感することができたので、次年度も楽しんで行っていきたい 3.2年間の経験を活かし、実施方法・内容等を工夫し、できる限りにおいて、予定通り行えたので、この経験を活かし、次年度に繋げていきたいと思う	5	2	0	0	1.今年度もコロナ禍の対策を引き続き行いながら、2年間の経験を活かし、例年通りの遠足・レクリエーションの実施により、親子で楽しい時間を過ごすことができたようで良かった。又、なかなか見られない園での子ども達の様子や友達とのかかわり等を感じられる貴重な時間になっているので、今後も継続して行って欲しいと思う。 2.絵本やごっこ遊びは、子ども達はその内容・物語に入り込んで空想の世界を楽しみ、心の面で成長を感じられる大切な活動であると思うので、今後は是非、大切にしていって欲しいと思う。リトミックは、生活発表会でも普段の楽しんでいる様子を見ることができ、自分で感じて考えて表現し、遊びの中での学びがあり、リトミックの魅力を感じている。今後も継続してほしい 3.園や先生の雰囲気を知る上で、未就園児教室は欠かせないものであり、親子のふれあい遊びも楽しい時間であると感じる。また、野外施設の行事も今年度から母親だけの参加のイベントが開かれるようになり、母親同士が親しくなるよい機会になったり、情報交換の場としても楽しい時間を過ごすことができたと思うので、次年度も声があつた。自然の中でリフレッシュすることで、子育ても楽しく取り組めるとのことで、来年度も楽しみである
	2.心豊かに育む絵本の読み聞かせ ごっこ遊び・リトミックの充実	2.年間を通して、各クラスで季節や子ども達の興味関心を考慮しながら、可能な限り、毎日、帰りの時間に絵本の読み聞かせを行った。又、毎週1回クラス文庫の日を設け、各家庭に絵本を持ち帰ってもらい、親子で絵本に親んでもらう取り組みをした 今年度も各学年、子ども達がより意欲的に活動に取り組めるよう、ごっこ遊びを取り入れた保育の柱とし、園児と楽しい活動を行なうことができた。定着してきたリトミックも、各学年、年間計画をしっかりとたて、各学年の子ども達と楽しむことができた	8	0	0	0		7	0	0	0	
	3.在園児及び未就園児親子への子育て支援の充実	3.在卒園児向けに休日の園庭の開放、子育て相談の実施、開園日は預かり保育を実施。また月2～3回、0～3歳までの未就園児親子対象のひよこデーや、次年度入園予定の親子を対象に親子すくすく教室を実施。さらに、秋には野外施設の開放デーの実施、冬には野外施設でミニイベントも実施した	6	2	0	0		7	0	0	0	

B. 保育の計画性	1.園の理念や教育方針について、園長や教職員と話し合っている	1・2に関しては、学期前、学期終了後を始めとして、必要に応じて、職員会議の時や、研修の機会を設け、教職員全員で話し合った	6	1	1	0	1に関しては、年度開始前、日々の職員会議等で話し合いの機会は多々設けた。ただ、教職員によって理解度に差があるので、一人ひとりの教職員がしっかりと理解を深められるよう個別にも伝達・指導していきたい 2・3に関しては、毎年、年度初めに年間カリキュラムを作成し、月単位、週単位と確認の上、実践・反省・評価するよう努めている。ただ、保育計画への理解に個人差がみられるので、一人ひとりの教職員がしっかりと理解できるよう、今後も伝達・指導を徹底していきたい	5	2	0	0	自分達の職場でも、若い人達の考える力や創意工夫する力の低下、意欲の低下を感じる機会が増えているので、園で指導に携わる先生達の大変さが理解できる。職員会議等で教職員全体的話し合いや個々にも伝えていっているようだが、今後も園の方針や理念についての相互理解を深めていってほしいと思う			
	2.園の教育課程を理解し、子どもの実態・地域性を考慮し、保育計画を立てている		5	1	2	0		7	0	0					
	3.保育計画と実践の評価・反省を行い、次に活かせるように心掛けている	3	4	1	0	3	4	1	0	0	7		0	0	
C. 研修と研究	1.研修会や研究会に意欲的に参加している	1.過去2年間、研修会が中止されたり、リモートのみでの参加となっていたが、今年度は久しぶりに対面（会場）での参加もでき、zoom等によるリモート研修と併せた研修会への参加ができた	4	3	1	0	1今年度は、過去2年間よりもリモート研修を含め、研修会にある程度参加することができ、それを園の活動にも繋げていくことができたので良かった。次年度以降も、可能な限り、研修には積極的に参加し、資質向上に繋げていければと思う 2園内研修に関しては、今年度、初めに心あたり、基本的な事柄に重点をおき取り組み、成果を感じることができた。ただ、教職員によって差があるので、共通理解を持って教育活動を行えるよう指導・援助していきたい 3・4に関しては、前年度同様、管理職等の指導や助言をもとに学ぶだけでなく、教職員一人ひとりが自ら学ぶ大切さを伝え、自ら学ぶ体制作りを心掛けたので、その成果を感じられた。次年度もこの姿勢を大切にしていきたい	0	7	0	0	1・2については、園内研修に加えて久しぶりにリモートではなく外部の研修に参加したと聞いた。先輩後輩関係なく、それぞれの先生の良いところを取り入れ、子どもたちの活動に活かすための園内研修はもちろん重要だが、手遊びやリズム遊びなど、新たに得たものを子どもたちに還元する外部研修も、コロナが落ち着きつつある今後はより積極的に取り入れていって欲しい 3・4に関しては、教材・教具についての知識の獲得や技能の習得については、子どもの発達においても安全面においても知っておくべきことだと考えるので、今後も機会をたくさん設けて、知識の共有を図ってもらいたいと思う			
	2.園内研修を積極的に行っている		2	5	1	0		2	5	1	0		0	7	0
	3.教材・教具について知識を得たり、様々な活用方法を研究している	2	6	0	0	2		6	0	0	5		2	0	0
	4.保育に必要な知識の獲得や、技能の習得を積極的に行っている	2	5	1	0	2		5	1	0	5		2	0	0
D. 保育のあり方・子どもへの対応	1.一人ひとりの子どもとの関係がしっかりと築けている	1～3に関しては、各教師が、家庭から提出される個別表、前年度の担任の話、連絡帳、個別面談、保育日記、日々の保育活動等を通して、1年間を通して、一人ひとりの園児を理解し、信頼関係を築けるような様々なことを取り組んだ。支援を必要とする子の保育・対応や、保護者教育についても勉強会に力を入れた	5	3	0	0	1～4各項目に関しては、職員会議等で日々確認しながら行ってきたが、こども一人ひとりの関係、クラス作りにも個々で理解の差、意識の差がでてしまったので、教師によって極端な違いや差が出ないように、個人的に具体的な指導を実施し、話し合いの場をできるだけ設けて、今後に繋がるようにしていきたい。又、前年度同様、支援が必要な園児も増えてきているので、保護者対応も含め、しっかりと対応できるように体制作りを心掛けていきたい	6	1	0	0	まずは温かい優しいかわわりを柱に、子ども一人一人の思いをくみ取り、指導して下さる先生方の姿に、安心して子どもを預けられると感じている Bにも繋がるが、園が大切にしている保育理念や方針を先生方がしっかりと体現し、先生方が生き生きと楽しんでいる様子が子どもたちにも伝わり、「幼稚園大好き」という気持ちに繋がっていて嬉しく思う。今後もそういう姿勢を大切にして欲しいと思う			
	2.一人ひとりの子どもの興味・関心事及び友達関係をしっかりと把握している		5	3	0	0		6	1	0	0				
	3.一人ひとりの子どもの発達についての理解が十分にできている	5	3	0	0	6		1	0	0					
	4.健康と安全についての配慮ができています	8	0	0	0	7		0	0	0					
E. 幼稚園運営	1.クラス経営がスムーズに行われている	1.各担任が、各クラスの子どもの良い所を伸ばし、子ども達1人ひとりが生き生きと遊ぶよう、日々の保育に創意工夫を心掛けるよう援助し、実践した。また、管理職を始めとして、園全体としても活気溢れる魅力のある園でいられる環境設定（物的・人的）に取り組んだ 2.例年通り、管理職（園長・主任等）やベテラン教員ができる限り相談、指導の場を設け、話し合いを重ね、関係作りを心掛けた	5	2	1	0	1.個別面談、連絡帳、お手紙等で、保護者の皆さんからは多くの感謝のお言葉等を頂いた これからも教職員によって理解の差・対応の差が生じないように話し合いの機会を設け、しっかりと指導していきたい 2・3共に、前年度同様、日々の職員会議だけではなく、その都度、必要に応じて話し合いの機会を設けたので、ある程度、成果	4	3	0	0	自分の思いや考えを素直に出せる環境作りを大切にしていることが、子どもたちの表情からも感じ取れた それは、園長先生をはじめ、ベテランの先生が若い先生方と向き合い、日々コミュニケーションをとっていることによるのだと、お話を聞いて感じた。 園全体の在り方は、本当にアットホー			
	2.園長・主任等管理職の教師との関係は円滑にしている		6	2	0	0		5	2	0	0				

	3.同僚の教師との協力・連携がしっかりと なされている	3.各教師が自身のことだけでなく、学年・園全体として 共通理解が持てるよう、また、しっかりと協力・連携体 制が築けるよう、毎日の職員会議等、話し合いの場を多 く設けたり、指導にあたった	6	1	1	0	を感じる事ができた。ただ、思 い違いや捉え方の違いも多少あ ったので、その反省点を次年度 に活かせるよう、指導・助言を徹 底していきたい	5	2	0	0	ムであり、働く先生をはじめ、子どもや 保護者の皆さんにとっても安心できる 場所であり続けて欲しいと思う
F. 保護者への対応	1.園や家庭での子どもの様子について、電 話・連絡帳等でしっかりと伝え合っている  2.保護者からの相談・クレーム等を、園長、 主任等に報告・相談し、対応している	1.連絡帳、電話、クラス便り、手紙、又、送迎時に直接口 頭などで、様々な方法で、できる限り伝えあった  2.各教師には、常に報告・連絡・相談を心掛けることを指 導しており、保護者対応に必要な事柄が生じた場合は直ぐ に園長・主任等にも報告し、話し合いを行い、必要に応じ て、園長・主任等が保護者面談を行ったり、改善すべき所 はすぐに対応するよう取り組んだ	5	2	1	0	日頃より、教職員に一人ひとりに 丁寧かつ細やかに対応するよう 指導・助言を心掛けているので、 多くの場面でしっかりと伝 達や対応ができていたが、一部、 経験が浅い若い教師もいて、不 十分な面も見られるので、今後、 言葉遣いや伝え方等の指導をより 徹底していきたいと思う。又、 園としての考え方をしっかりと 教職員間で共有し、保護者との やりとりがスムーズに行われる よう心掛けていきたい	5	2	0	0	保護者からの質問や相談等、またその 日にあった子どもの様子など、細かな ことも毎日打ち合わせで共有されてい るとお聞きした。なので、担任でない先 生にお話ししても理解が得られ、どの 先生にも対応してもらえることが安心 できる。ただ、園長先生や主任に確認せ ずに先生の判断で対応してしまったケ ースがあったようで、改めて、報連相の 大切さを伝えていくことが必要だと感 じた
G. 地域の幼児教育 センターとしての 役割	1.園に対する様々な問い合わせ等につい てきちんと対応している  2.地域の人たちや未就園児に対して、園庭 等を開放したり、子育て相談に応じている  3.子どもの教育のために利用したい地域の 自然環境や施設、機関について理解して いる  4.預かり保育を実施している	1.未就園児の活動や次年度の入園に関する問い合わせや、 地域からの園行事に関する問い合わせ等にしっかりと 丁寧に対応するよう心掛けた  2.例年、月に2～3回、0～3歳までの未就園児親子対象の ひよこデーや次年度入園予定の親子を対象に親子すく すく教室を実施してきたが、今年度もコロナ禍で、例年 通りまでとはいかなかったが、感染対策をしながら、可 能な限り実施した  3.例年通り、よく利用する、また、利用する可能性がある 場所については事前に出向き、利用方法、安全面等につ いて、常に下調べを行うよう心掛けた  4. 通常日の預かり保育、長期休業中の預かり保育を実施 特に、長期休暇中の預かり保育の実施については、利用 者も増えたので、できるだけ保護者のニーズに応えられ るよう日程調整し、実施した	5	2	1	0	1.基本町立保育園として、共通の理 解を持ち、対応に差が出ないよう、 職員会議等でしっかりと話し 合いの場を設けている。ただ、 現状は個々に対応の差があると 感じる面もあるので、今後はそ れぞれの教職員がしっかりと対 応できるようにしていきたい 2.今後も地域の園としての役割 を果たしていけるよう、在園児 だけでなく、未就園児、地域の方 に対しても、できる限り開放的 な園でありたい 3.例年通り、年度開始前や職員会 議、園外保育時、教職員へ伝える 機会を設けて活動したので、 成果を感じる事ができた。た だ、理解度に個人差がみられた ので、今後は個々に丁寧に伝え ていきたい 4.通常の預かり保育に加え、保護 者のニーズに応えるため、長期 休業中（夏・冬）の預かり保育実 施時間の延長を行ったが、春期 預かり保育実施への要望も増え たので、次年度から春期預かり 保育も年間計画に入れ、実施し ていきたいと思う	5	2	0	0	1.保護者や他の問い合わせについては、 担当の先生が中心に対応されていると お聞きしたが、他の先生方とも共有し、 今後も丁寧な対応をしていって欲しい。 2.コロナ禍であったが、これまでの経験 を活かして感染対策をしながら、野外 施設を開放したり、未就園児親子等 にも対応したようで、コロナが落ち着 きつつある次年度は実施日も増やしてい って欲しいと思う 3.今後も野外施設だけではなく、初めて 行く場所についても、事前に安全面や 利用方法を確認し、園全体で、しっか りと共通理解を深めていく体制作りを心 掛けて欲しい 4.働く母親が増えており、預かり保育の 重要性は増していくと思うので、年間 を通しての実施日の拡大が益々求めら れると思う。行事や活動などの関係や 先生の配置など、整えていくべきこと が多くあると思うが、引き続き春期 預かりの実施も検討して欲しいと思う
H. 自己評価システム	1.教師1人ひとりがしっかり自己評価して いる  2.自己評価に対し、園として問題点を把握 し、その改善に対処している	1.各学期末・学年末に自己評価表を用いて自己評価を実施 した  2.各学期、自己評価をもとに、職員会議等で園として、ま た一教師としての問題点について話し合い、改善策を検討 し、次学期の保育活動に活かすよう心掛けた	5	3	0	0	自己評価と併せて、客観的な評 価もしっかりと取り入れて、今 後もより質の高い教育活動がで きるように、また一教師、人とし ても成長していけるよう話し合 いの場をしっかりと設け、改善 点を次年度に活かせるようにし ていきたい	7	0	0	0	保育準備や毎日の保育に関して、失敗 や反省等を今後活かすために、しっ かりと振り返り話し合うことを大切に されているとお聞きした。今後も自己 評価も含め、今の姿勢を大切にして欲 しいと思う
I. 外部アンケート	1.保護者へのアンケートをしっかりと実施し ている  2.保護者へのアンケート結果をしっかりと受 け止め、課題に対し善処している	1.年度末に幼稚園及び教職員、子どもに関するアンケート を実施した  2.アンケート結果を真摯に受け止め、改善点については改 善策を考えた	8	0	0	0	今後の園運営の課題を知ること ができるよい機会なので、頂い たお声を真摯に受け止め、次年 度以降の園運営・教育活動等に 活かしていきたい。又、保護者 の方からの質問にも、丁寧な説明 を心掛けていきたい	7	0	0	0	昨年度同様、今年度もコロナ感染対策 を行いながら、子どもたち保護者の方 が楽しめる教育活動であったと思 う様々な考え方があつた中で、その時しか 味わえない活動や行事を実施して頂 き、子どもの成長も感じる事ができ た。良いことも悪いことも、意見をし っかりと今後に繋げて欲しいと思う